

株式会社日本触媒

2014年3月期第2四半期決算説明会

2013年11月8日



2013年度 第2四半期の実績と 通期の見通しについて

代表取締役社長

池田全徳

目次

- 1 . 2013年度業績
- 2 . 事故とその後の対応
- 3 . 姫路製造所の操業状況
- 4 . 主要事業の動向
- 5 . 新規事業の動向
- 6 . 利益還元策
- 7 . 新生日本触媒

用語解説

SAP : 高吸水性樹脂
AA : アクリル酸
AES : アクリル酸エステル類
EO : 酸化エチレン
EG : エチレングリコール
NAII : エヌエイ・インダストリーズ Inc【米国】
AAL : アメリカン・アクリル【米国】
NSE : ニッポンシヨクバイ・ヨーロッパN.V.【ベルギー】
NSI : PT.ニッポンシヨクバイ・インドネシア【インドネシア】
SAA : シンガポール・アクリリック Pte Ltd【シンガポール】
NSA : ニッポンシヨクバイ(アジア) PTE LTD【シンガポール】
NSC : 日触化工(張家港)有限公司【中国】
アクアロック : 当社コンクリート混和剤用ポリマーの商品名

1. 2013年度業績

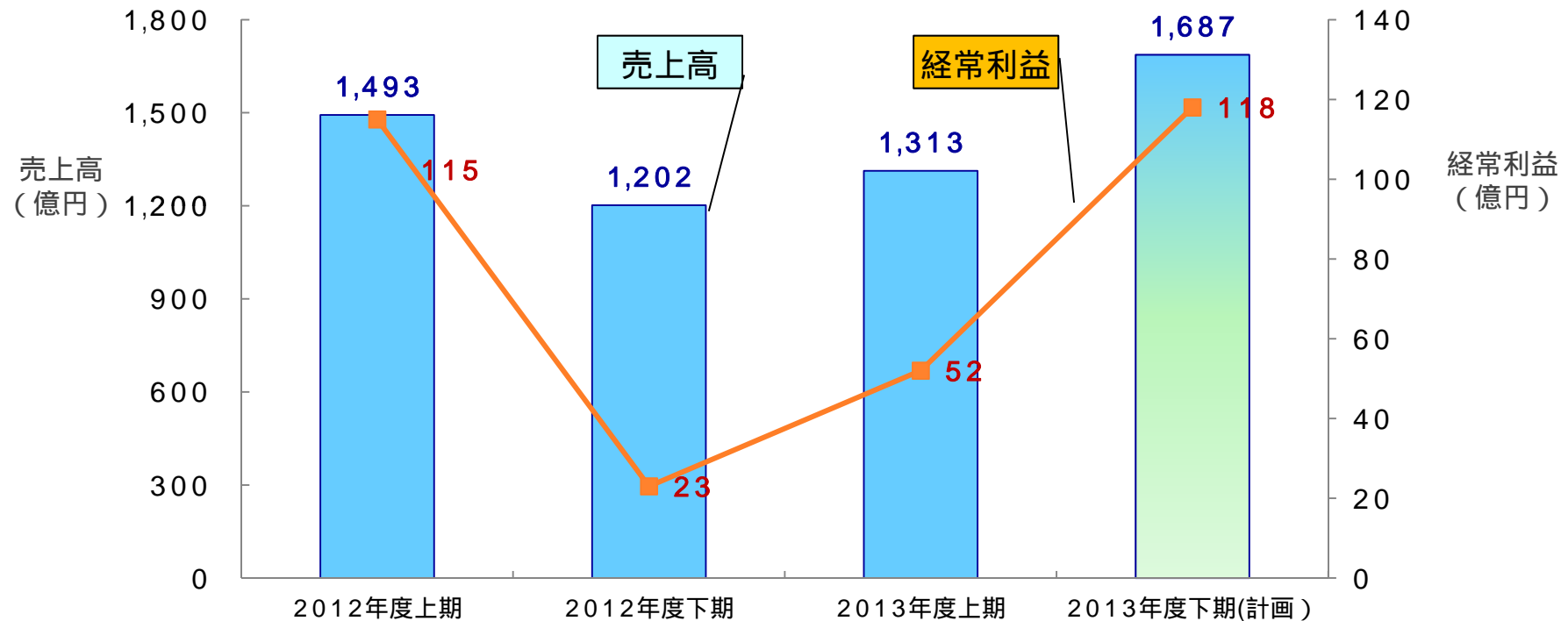
(単位：億円)

		2012年度			2013年度		
		上期	下期	通期	上期実績	下期推定	通期推定
業績	売上高	1,493	1,202	2,695	1,313	1,687	3,000
	経常利益	115	23	138	52	118	170
	ROA (総資産経常利益率)	6.5%	1.3%	3.9%	2.9%	6.2%	4.6%
事業 環境	ナフサ価格 (円/kL)	55,200	59,800	57,500	64,700	65,000	64,900
	為替レート (円/USD)	79	87	83	99	95	97
	為替レート (円/EUR)	101	114	107	130	125	127

1. 2013年度業績

姫路事故で落ち込んだ利益水準を着実に回復・向上
 通期では、前期比増収増益を想定

売上高・経常利益 推移

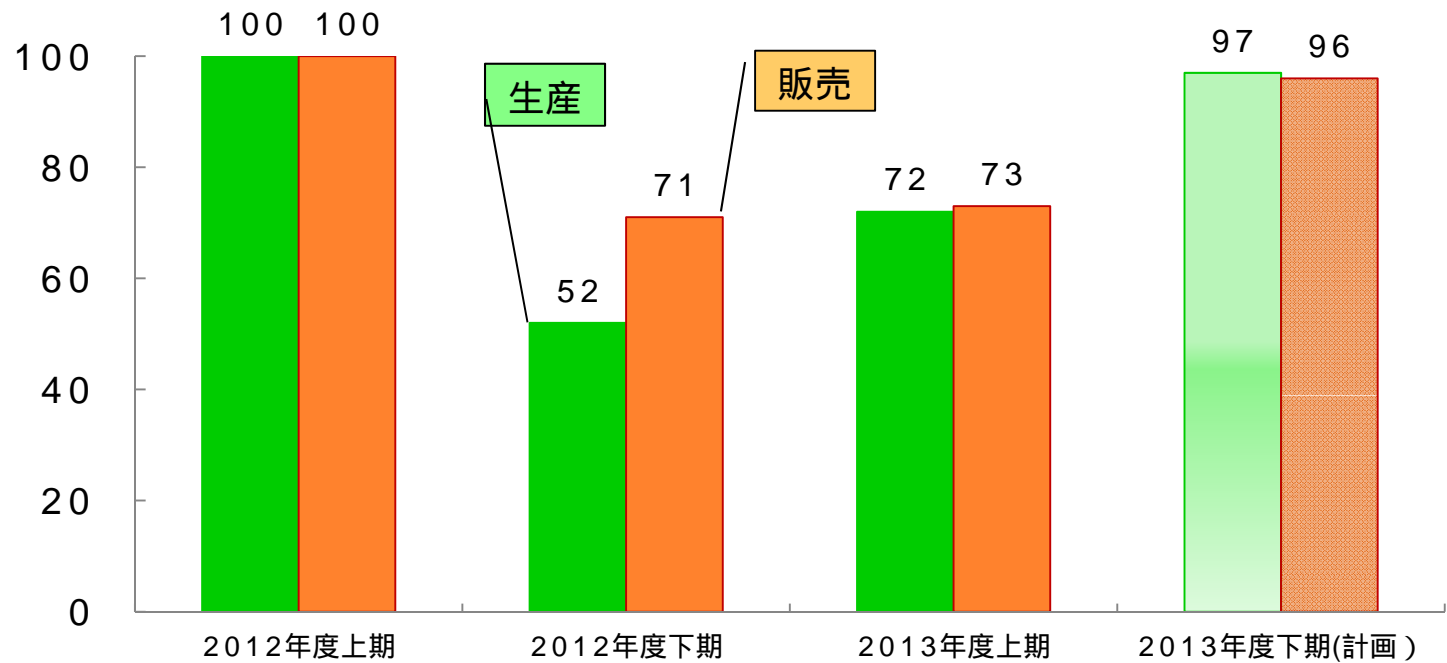


1. 2013年度業績

生産数量 利益水準と同様に順次回復

販売数量 2012年度下期は在庫販売・商品購入等をつなぎ
2013年度下期に事故前の水準に復帰

生産・販売数量推移（単位：2012年度上期を100とした指数）



2 . 事故とその後の対応

姫路事故とその後の経緯

2012年9月29日 姫路製造所・アクリル酸製造設備で爆発・火災事故発生

- ・死者1名、負傷者36名
- ・「危険物製造所等一時使用停止命令（以下「停止命令」）」対象168施設をはじめ全ての製造、物流設備等を停止

11月1日「停止命令」一部解除通知受領

- ・この日以降10次に渡り一部解除通知を受領し、徐々に生産を再開

2013年3月27日「事故調査委員会」より事故報告書を受領

- ・事故原因の特定と再発防止策の提言

8月6日「停止命令」一部解除通知受領

- ・この通知により姫路製造所の全種類の製品生産が可能となる

9月26日 姫路製造所にて安全祈念式を執り行う

- ・「安全の誓い」および「安全の誓いの日（9月29日）」を制定

「安全の誓い」

私たちは二度と悲惨な事故を起こさないと決意し、
社は「安全が生産に優先する」のもと、事故の教訓を心に刻み、
一丸となって保安力を向上していくことを誓います。

「安全の誓いの日」制定
毎年9月29日

2 . 事故とその後の対応

社は「安全が生産に優先する」の徹底

- 1 . 再発防止策の実施
 - (1) リスクアセスメントと具体的対策の実施
温度監視設備拡充 - > 管理基準を見直し実効性強化
変更管理、非定常作業管理のルール、仕組みを強化
 - (2) 事故情報、危険反応性情報の収集・活用
 - (3) 教育・訓練の充実
- 2 . 安全優先の風土強化
- 3 . 安全対策実施状況の検証
第三者による検証の実施
定期的な検証体制の見直し

BCP（事業継続計画）の強化

- 1 . 国内外拠点の拡大： 生産拠点の分散化
- 2 . 製造所外部の在庫保有強化： 緊急時出荷在庫の確保
- 3 . 生産委託先の確保： 緊急時の供給継続
- 4 . 同一製造所内の電気系統などの区画分化を検討： 早期の生産復旧
- 5 . 汎用原料の使いこなし： 代替原料の確保

3 . 姫路製造所の操業状況

「危険物製造所等一時使用停止命令」の影響を受けている製品の製造設備稼働状況（2013年10月31日現在）

（単位：万トン／年）

事業セグメント	製品名	姫路全体 生産能力	内稼働 可能	比率	グループ全体 生産能力	内稼働 可能	比率
基礎化学品	AA	46	30	65%	70	54	77%

- ・一部のAA製造設備以外は、命令の解除を受けて稼働を再開している。
- ・高吸水性樹脂（SAP）などのAA誘導品は、姫路製造所のAA稼働可能生産能力が事故前の65%に留まっていることから、同等の稼働率になっている。

<内訳>

姫路	: 30	万トン／年
AA L（米国）	: 6	
SAA（シンガポール）	: 4	
NSI（インドネシア）	: 14	

4 . 主要事業の動向 (1) SAP

需給動向

需要 世界需要 約200万トン(2013年推定)

中期的には年率6～7%の成長を想定

供給 既存大手以外の新興メーカーも参入・増強を計画

2013年 増設計画世界合計 32万トン/年(当社グループを含む)

当社の状況とアクション

姫路製造所 AA設備の稼働見合いで、SAPを生産

海外拠点

NAII(米国)：テキサスの新プラント(6万トン/年)フル稼働

テネシーの旧プラント(4万トン/年)フル稼働

NSI(インドネシア)：新規設備(9万トン/年)は、計画に沿って立上がり、高稼働

NSE(ベルギー)、NSC(中国)：フル稼働

数量回復、シェア回復へまい進する

- ・顧客層の充実
- ・新タイプの開発(機能性向上、コスト競争力向上など)

4 . 主要事業の動向 (2) AA

需給動向

需要 世界需要 約450万トン(2013年推定)

中期的に年率5%程度の成長を想定

供給 2014年に中国を中心に大幅な能力増強計画(需給は軟化を想定)

当社の状況とアクション

姫路製造所

既存設備：年産能力合計 46万トン中30万トン稼働再開。 休止中の設備は復旧工事中。

新規設備(8万トン/年)：事故後中断した工事を再開し、2014年度初に稼働予定。

海外拠点

既存設備：高稼働を維持

新規設備 NSI(インドネシア)・8万トン/年： 増設設備は稼働開始し、高稼働。

安全、安定操業の追求

- ・安全強化策の全グループ展開

収益力の維持拡大

- ・生産能力当り設備投資額の削減
- ・AA触媒性能の改良
- ・特殊エステルの拡充

4 . 主要事業の動向 (3) AA/SAP世界展開



(単位：万トン/年)

社名	国	場所	AA	生産能力		SAP	生産能力	
			2013年10月 31日現在	増設計画	商業運転	2013年10月 31日現在	増設計画	商業運転
日本触媒	日本	姫路	46	8	2014年 年度初	32		
NAII	米国	テネシー				4 (1)		2012年 12月
		テキサス				6		2012年 6月
AAL	米国	テキサス	6					
NSE	ベルギー	アントワープ				6		
NSI	インドネシア	チレゴン	14 (2)		2013年 10月	9 (2)		2013年 10月
SAA・ NSA	シンガポール	ジュロン島	4					
NSC	中国	張家港				3	3	姫路復旧を 優先し中断
合計			70	8		56 (+ 4)	3	
計画完成後 合計				78			59 (+ 4)	

- 1 事故対応のための期間限定運転で、2013年11月末までに稼働終了予定。
- 2 AAは14万トン中8万トン、SAPは全9万トンが2013年10月から商業運転を開始。

4 . 主要事業の動向 (4)EO (5)機能性化学品



EO

非EG化：安定的に70%前後の非EG化率を維持

高級アルコール（ソフタノール）：洗剤向けに需要拡大、増設検討

- ・ 川下製品の選択と集中推進
- ・ グループ会社とのシナジー追求

機能性化学品

光学材料用アクリル樹脂(アクリビュア)：樹脂販売拡大、フィルム本格化は下期以降

マレイミド類：ABS、MMA樹脂の耐熱性向上剤として成長。下期能力増強し拡販を図る。

N-ビニルピロリドン(NVP)、ポリビニルピロリドン(PVP)：医療用中空糸向けに拡販

- ・ 独自製品・技術による市場開拓と成長市場への参入
- ・ 強み・弱みを見極めた選択と集中の強化

5 . 新規事業の動向

新エネルギー材料

リチウムビスフルオロスルホニルイミド (LiFSI)

用途：リチウムイオン電池用の長寿命化、安全性向上添加剤

今期から販売開始 **先行メーカーの地位確立**

固体電解質ポリマー (ICP：イオンコンダクティブポリマー)

用途：電気自動車、定置用のリチウムポリマー電池材料

販売拡大中 **製品のコストパフォーマンス向上**

燃料電池用ジルコニアシート・セル

用途：SOFC (固体酸化物形燃料電池) の心臓部材

シート：**性能・品質のさらなる向上** セル：**事業化実現**



健康・医療事業

提携・M&Aを手段として事業化を模索

技術調査・市場情報の集積

社内R&D部門との連携による自社開発の促進

6 . 利益還元策

事業拡大や企業体質強化等を総合的に勘案しつつ、
連結業績動向を見通し、中長期的水準向上を目指す

コア事業強化に向けた高水準の設備投資と姫路事故の影響が残る利益水準

設備投資額

2012年度実績：291億円

2013年度推定：280億円

2012年度配当

当期純利益 84億円

円/株	中間	期末	合計
普通配当	11	5	16

2013年度配当（予想）

当期純利益110億円（期初120億円）

円/株	中間	期末	合計
普通配当	8	8	16

	2012年度	2013年度（推定）	2011～13年度平均
配当性向	38.7%	29.5%	27.0%

7 . 新生日本触媒



大型プロジェクトの推進

社名	国	場所	製品名	生産能力 (万トン/年)	商業運転
日本触媒	日本	姫路	AA	8	2010年4月
		姫路	SAP	6	2010年10月
		川崎	アクアロック	1 . 6	2012年4月
NAII	米国	テキサス	SAP	6	2012年6月
NSI	インドネシア	チレゴン	AA	8	2013年10月
		チレゴン	SAP	9	2013年10月
日本触媒	日本	姫路	フェニルマレイミド	1	2013年12月予定
		姫路	廃液燃焼設備	-	2013年12月予定
		姫路	AA	8	2014年4月予定
		川崎	液化炭酸ガス	3 . 2	2014年4月予定
		川崎	特殊エステル	2	2014年4月予定

前長期経営計画「テクノアメニティ2015」(2010~15年度)の下、成長の基盤作りを着実に推進

7 . 新生日本触媒



(2013/10/23 完工式)

2013年10月
NSI AA / SAP新設備
商業運転開始



(新AA 8万トンの設備)



(新SAP 9万トンの設備)

7. 新生日本触媒

新中長期経営計画

「皆が誇れる会社」 に向けての経営計画を策定中
(長期2014~20年、中期2014~16年)

2013年度 = 新経営計画のスタート台

- ・ 安全な生産活動
- ・ 販売シェアの早期回復と適正なスプレッド確保
- ・ 新規製品の速やかな上市
- ・ 原料等の安価調達、物流コストの低減、全社あげての経費削減



新たな飛躍へ

おことわり

本資料は、投資判断の参考となる情報提供を目的としているものであり 投資勧誘を目的としたものではありません。また、記載されている内容は、資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した内容を含んでおり、記載された内容を確認したり、保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、異なる結果となる場合があります。

お問合せ先：

株式会社日本触媒 IR・広報室

東京都千代田区内幸町1-2-2 日比谷ダイビル

TEL： 03-3506-7477

FAX： 03-3506-7598

URL： <http://www.shokubai.co.jp>